色深炉の夢

へ13
2915
5

へ13
2915
5
特

昭和九年
七月十八日

大角丈助両人帯びく姿音あり。四間位
とう弥ど。行ふ。行ひしや。作者も考へぞ。
隣の三人。胴を尾係掘りぞ。
やあつて大角 図 てんぐ。きいろ。 図 まーだんあく
そろう 図 深ふ。おめぐ 図 いりけでいと 図 まれこと
今のをあろう 図 これふおりまし。風呂場をおい
せう トさのふこ入こ前ゆうけこ二人 図 ちんと柳さんぐう
しこう 図 いやそやらんぐ女郎ぐ 図 サアられうく
おもい切こ下さうゆせ 図 女郎といふものあ。
われこと入せても。皆あ。通りあこ。めぐ。のの大角

宮城県図書館

めも。麗もけつも。母ろうそくりどや。ホ法ゑどや
の。茶西ゑどやのと。皆女郎のあい菓ゑどやようりく。柳
さんふ深入をくさんのしどや。西い菓ゑどやあつてくふ
さんれをふだ白さんれちくのしどや。それでさへ吐夜茶
ろんがくろいよりく。北ともも教をりはあひくん
あぐ。ちつーちゆ西へ。内く清さんふ吹ちく。このひ西へ
ちんへまくせちあく。あちくを連くきてでわろんや
そとちふくふ。縁がふてもあい吉たあきれ穴の底と
さんめんく。化の皮をちくしくも清金く四郎さんの
きん見ろが帯いくこのしどや写たくひ又。柳さんがう多

出ーおさんでくろがよれ細七強く。地化ふさつても蕎
ぎやあいがいのをふやく生く紛ちん図これくてくんと
ちもい切。早く御飯図あんて。法娘さんて法祝云ふさ
れすせ断ぶんくのを見さふぞんぎる。これまでち
あれ貴女ちふまくく。家い耳ちくいちふんぐ今
日は今養さあて。四郎ちんの。ちへも。高国をへ早く
図く飯う。母ふも鬼と俺ちやふ図あちあんてちくむ
るふちるちとちくんす。若具ちくふぐひ切てちくう
ちくく。それでくそ飯く今ほうはもあれ。ちくく奥
孫が内登うて。路用のちくちゆちやちくく五十ち。

あけやうふ要女とハさてゞ。ゑうさんのうあと四郎さん
を[illegible]ゝうれてのけうが。ゐへべ測ふ拾ゝさも同あうゝ
さん[illegible]ハ大ふゝうゝうれゝさと野へべ。ゝうのとア[illegible]こと
ゝう女郎賣ゆあゝう。一日のゆゆアゆ又十両ゝうゝへハ[illegible]
清いつてもあゆう馬鹿げ切て居る[illegible]ゝゝゝめゝぬ
ゆ八乗四郎。ゝうゝ。ゝゝゆゝ二人が美の仕[illegible]ゝゝめふ
され。姫ゝれゝつといふ世界ふゝゆハ先一ゆハのゝゝま
せふトゝ人のんでゐる[illegible]大角戈弁湯ゝゝ[illegible]
因姫さんゝ見ゝの中でもゝゝゝゝゝゝ。ふゝんゝゝのトゝ
ゝゝゝゝと 図ゝふゆゆゝれゝゝゆゝゝゝゝゝゝ。

ほんゆと一日多ゝうあゝれゝと 因五十両あるゝゝゝゆ
あゝゝう 図五十両づゝしゝゝあゝゝふトゝゝと 下女八イゆゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝう 図けゝゝゝ姫ゝれあゝれ 下女八イ トゝゝゝゝゝ
姫湯の代も一ゝふゝゝて。三十八文ゝゝゆふゝゝゝ因ゝん
あゝゝ今のゝゝゝ一両あゝげゝけゝゝゝゝひ 図ゝゝゝゝゝゝ
トゝのゝゝ十ゝのゝゝゝトゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北八丈ゑんでこうきん図ちゑへ来うつるがあんぐこ
じゃ。はれが掃ふくゆろト金二百七十両　南こうやゑ多ござう
きんに図あちらと一貫文ふしてきこあやつこ移りく
はのくたも国へイトゆびがあるべく　コリやようりんこれがかん
まみち小判じゃ。俺こがうめこれの出こうがようけつこや。
平ままこるこほしやこのぶんの二月でも三月でもうけ
こゆこうれど。逆移ごうみゆこふたこめこうこうどこら
こやこかんのしゃ。八朱あの旦那とねんぐ者の図コレ
吉こ。ちこやたるこ大角がどこでれ客こむしんいこく。
ここうこのじゃあこう。そ客めがこんふ関係のこけも知て

みこうくこうこぎこうこうこうこうこ今宮とはうこうこのじゃ
あこうごん図こんふこでごゆきこふ。何しゃきこうんが。
ふんぶしこ。ぼんかこうふくこせこじみゆじゃ。旦那
はあこうがこう　ト大角つこ紛れこ　因四郎きんいいの関ふおでふ
きこつこ図今まこのじゃちこいこと紛てこふト大角こ
大角こ大角こ大角こ大角こ　図ヤイやめけこふめ歩くく
こんふごこうこゆこうまさんくはれふこごとかしこふ。
それふちんじゃ。心配きこのこゆこうこふせこんゆ
の客こはこうれんこのぶんのこけこうこうこ
こう。文十両くと大こふこうふ永ほくしゆいくあこ

夢や梅と柳の
中に傳
千里居
よひごとに対して来
る好人ゆりて衣とる
に風の帝一さう
意雅栗三

素文
猛
蛙泉寫

いまく〳〵ト（おろして）　因　コリヤ柳さん四郎さんもおやすみ
三人このせのとさるをり（？）
のんで居る大角公（？）
ちかア　ト（ばし）　冨　小生命（？）
こゝろかぶりいふて　又十両ちかをして
きく又十両と一才（？）
外掃（？）しちきく　柳さんもかくやとこゝろ
おうえる事小ちの（？）
ぬれがこゝろてやち（？）
因　図　そんちらさんいふうのふこうはそるかーも　柳

皆ちのさ　因　図　コヽトト（ばし）　冨　八ツ　柳さんも清さんも近く
国へ（？）
そこ小ぬれあくやふ八ま四郎じやちん。又ちの去
しやこそ高麗かうじやこのこんちをを聞へらむ
きやちぬ（？）味噌いてやちト（？）
因　図　これをいぢきやく同あぢ地ちに　柳　十二ちづ
うと成てあけす　冨　コヽこれいてぶく早くいんでけぶこい
えせぬやう小ちこらいい関矢をつこちみちく
しや。時（？）ぶしやくいあく。さんぢら二丈でもいろはに
たちこれるがしうふのあやはうしじやこらやーしく

だゝしてらるゝが媚婦の業しゃ。峠屋の終を。後篇ハ
知つてよそゝ[illegible]ハテ扨
そんおうとゝ。ぐゝの妨をゝ。ゝ。ゝ。

一言ハ。亦嘱ひべきなり。あるべし。緑ノ子ガ
あるなり。古語ニ曰。青楼ニハ遊ブベシ。
青楼ハ青ノ楼ノ字ヒベクシテ。是微妙の
場ニハ。遊客最熟練ヲベキ言ナリ。
今閲八本四郎。善此場ヲ踏故ニ此ノ
青ノ字ヒベ。然モ通ト賞ゼラル。彼子房
ガ孔ヒ。ゼラルト同。大角ガ女媧緑ヲ看知テ。
忽一計ヲ施シ一度両人ヲ青ノ字ヒベ
いえども。御補ガ意ニ不ニ及シトヲエテ直
ニ円金三斤ヲ投シテ。窮ヲ救ひ。ヲ

情ヲ感ジテ事ヲ為ニ。ヲ沿ヒ。客ノ
客ニ不ニ。是ニ。ヲ揮ラハベカレ。
亦此ノ家ガ不他ハ。ヲ。ヲ格自通ト。
而嫉ヲ恣ニ。故ニ已ヲ顧ヲ。
遂ニ一娼婦ノ為ニ。家紋ヲ抱ヲ。是
ラ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
掌ニ集リ。泪雫ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
家ヲ捨テ。別ル。零落ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
紀ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。

その中ふかいなでうしめゝん一家好
主る時あれば柳浦が有福ありと捨て全
宿の女助ふ多を住せさるへいふでやたゝハ
大角の多ゝあゝ武い宝家孫多せと
ありぬ多ふい錦繡とやゝ〜ゝ心を住
といへぐ。ゝ〜ふ其妻と地髮結都風
の新ひふ多を住せゝ。多一せばるゝ。
果いふ町と扶もるたゞひ。あげてかゞ人ゞ
渭所斗を斗づれて。樂永其空中
ゝうゞ。然れば娼婦。強ゝ金ゝ挽物ゝ

いひゞ〜。只世情と慕ふものゝ。されば
青樓ゝ遊ぶの人。ゝ情を愛して。その
ゝふを更るすゞさ。嗚呼雖就出言只
慎しむべきを居續け。ゝ〜むべきを
已物なり事あり

ゑふきやうり給れど御免のうゑむり給て見るとゝろとて
十上給れる如く給へらは如戸御剃きの歌川國貞
門人歌川貞春と申る者と〻給
いやゝ者半ゆゑ給れど繪の道をゝ執心さ
〻ゆゑてお改め給て五渡亭へ門入いたし歌川
貞苗字とゆづられ則五蕉亭といふ号と
なろうられ給らゆゑふ給おも
御尚地への図り居給れば貞春御多谷
せの口上を頼〻給ゆゑいやゝごういく名私
さし出ゆゑくいゝと考へ入ゝられど

歌川貞春

花笠亭置助

明友達中ゝとも別懇の國貞が弟子の儀よみう給れば貞春での
改名の御披露を申上たてまつり給まゝを御取立をお給〻浮世
繪師似顔画工達数ゝも入給ゆゑ仲乗御長屋のほどをお頼ひ
申上ゆゑ先へ歌川貞春ゝ御目入へ口上さゆゑゆゑ思召ゝられゆゑ

花笠文京

おゝ小夜津乃梅ゝ蒼のめぐゝみ
春みめぐゝみゆゑ名をゆゑ

歌川貞春

ゆゑひいきをたのもゆゑ
両手はゝし給筆のゆゝ

青蛙

浪速　葦廼屋高振　著述

江戸　栁園　種春　校訂

江戸　歌川　貞晴　画

全

和田正兵衛執筆

文政九丙戌年三月吉辰

發兌

書肆

江戸日本橋磯石店　大阪屋茂吉

名古屋市下樽屋町　玉野屋新右衛門

京鯖藥師高倉西江入　山城屋佐兵衛

大阪心齋橋通博労町南江入　河内屋茂兵衛